



研究所だより

第139号 令和8年3月

発行：草津市立教育研究所



令和7年度 草津市校長会 代表の井上 忠之先生よりお言葉をいただきました。

「自分の頭で考える」 VS 「AI」

渋川小学校 校長 井上 忠之

最近、ある人気バラエティー番組で、とても興味深く、考えさせられる内容のものがありません。昨年11月に放送されたものですが、年末の特番でも取り上げられ、1月にも再放送されているのもたまたま目にし、3か月連続で放送されています。おそらく、放送後の反響が大きく、多くの人にとって興味深い内容だったのだろうと推測します。

それは、ある父親からの、「娘がAIに頼りきって、宿題でも何でもAIを使って仕上げてしまう。おまけに、AIが作った人権標語が入選してしまい表彰された。AIで結果を出せたことで、娘の人生がAIに喰われそうで怖い。どうか娘がAIに喰われる前に助けてほしい。」という依頼でした。

少ない文字数で表現する人権標語は、「友だち」「なかよく」「個性」など、限られた言葉が使われることが多く、ただでさえ似たような標語が多いのに、AIを使っているかどうかの判断はほぼ不可能です。以前、私自身も人権標語の審査に携わったことがあります。当時はAIが一般には使われることがない時代だったので、「今じゃなくてよかった…」と、正直なところ思っています。

さて、番組で私が最も驚いたのは、AIが作った“人権”標語が表彰されたことに対して「うれしかった」と答えたり、「罪悪感のような気持ちはないの？」という質問に対して「ない」と迷いなく答えたりしたことでした。「自分の頭で考えることをやめる」ことに対して、ためらいがない子どもたち（大人も？）がいること。ひょっとすると、それは相当な人数かもしれないことに、衝撃を受けました。

多くの人々が利用しているコミュニケーションアプリ LINEは、ずっと昔から利用している気がしますが、サービス開始から今年の6月でようやく15年です。そして、これからはAI全盛期へ。ますます心配される性的ディープフェイクの問題…。あまりに早すぎる変化と技術の進化に、社会は全く追いついていません。多くの大人が知らない、理解していないことを、子どもたちは知りすぎていますし、使いすぎています。

「“主体”的、対話的で“深い”学び」をめざして実践を重ねる私たち教員は、危機的状況に立たされているといえるでしょう。

そもそも、この原稿のタイトルに「VS」という語を使いましたが、その発想自体が既に間違っているのかもしれませんが。考えることをやめてしまわないように各自が心することを前提に、AIを活用していくことからはもう避けられない時代が完全に来ているのだと、番組を見て改めて感じました。

標語を表彰された児童が、父親から「将来、好きな人から告白されるときに、AIが答えた言葉でよいのか？」と聞かれて、「いや、それは自分でちゃんと考えてほしい。」と答えたのには、少し安堵しましたけれども…。バラエティー番組なので多少の演出はあると思いますが、皆さんは、どんなことをお考えになりますか。

令和7年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に応募し、取り組んでくださいました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞を授与しています。研究に取り組む中で、教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実につながることで、教職員・保育士の資質向上、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は24点でした。

	保・幼・こども園	教育委員会	小学校	中学校	合計
①就学前教育研究部門	2点				2点
②ステップアップ研究部門		1点	9点	2点	12点
③フレッシュ研究部門			4点	6点	10点
	2点	1点	13点	8点	24点

今年度も、若い先生方が意欲的に研究に取り組み、また引き続き応募して下さった先生方もおられました。研究主題は、児童生徒が主体となる授業づくり、ロイロノートなどのICT活用、各教科における指導法に関するテーマが多数見受けられました。

令和7年度 草津市教育研究奨励事業表彰式の開催

令和8年3月10日（火）に、教育研究所2階研修室において、草津市教育研究奨励事業表彰式を行いました。草津市立教育委員会 藤田雅也 教育長より賞状、草津市教育会 山元 孝子 会長より副賞が授与されました。おめでとうございます。



今年度御応募いただいた研究主題および審査結果の一覧を次のページに掲載しています。また、受賞者の研究論文の一部は [Teamsの「教材共有ポータルサイト」の08教育研究所のファイル](#)（または共有済み）に掲載していますので、ぜひ御一読ください。さらに、次年度夏季休業中の研究発表大会において、最優秀賞・優秀賞・特別賞・教育研究所賞に輝いた先生方の中から数名、研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業への御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



令和7年度 研究奨励事業 審査結果

部門	学校名	形態	応募者(グループ名)	研究主題	賞区分
数字前教育研究部門	1 笠縫こども園	グループ	笠縫魂サポートチーム	対話からはじめる“三方よし”の組織作り ～小さなことからコツコツと～	優秀賞
	2 志津こども園	個人	高木 優花	「考えるっておもしろい!できた自分ってすごい!」 ～子どもが自らやってみようとする環境を目指して～	奨励賞

ステップアップ研究部門	1 矢倉小学校	グループ	TEAM-YAGURA	話し合い活動の充実 ～話す、聞く。「いそがばまわれ」の精神を大切にすることの育成～	奨励賞
	2 草津小学校	個人	高井 育夫	学級形成期に必要な初任者研修のプログラム化に関する研究	奨励賞
	3 草津小学校	個人	山田 俊一	特別支援学級における集団遊びを媒介にした社会性育成の実践研究 -「ともに遊ぶ」から「ともに生きる」へ-	優秀賞
	4 山田小学校	個人	今井 雄一	G-OJTを活用した校内研究の活性化 ～教職員間のコミュニケーションの活性化を目指して～	奨励賞
	5 笠縫東小学校	個人	中田 裕貴	自己の生き方について進んで考え、自分事としてとらえる 道徳科の授業の創造 -構造的な板書と発問の工夫を行う道徳科の授業を通して-	奨励賞
	6 笠縫東小学校	個人	福居 みどり	理科における探究的な学びを深めるための実践研究	奨励賞
	7 笠縫東小学校	グループ	笠縫東小学校 2年	AI画像生成の活用により「読み解く力」を育成する 学習プログラムの開発	特別賞
	8 新堂中学校	グループ	新堂中学校教育相談部会	不登校(傾向)生徒の心の居場所づくり ～step roomの取り組みをととして～	奨励賞
	9 常盤小学校	個人	西野 明日香	子どもの「楽しい!やってみたい!」を引き出し、コミュニケーションを 豊かにするためのロイロノートの活用	奨励賞
	10 玉川小学校	グループ	玉川小学校 1年	「たまがわ・かかわり隊」 自分のまがが大好きだと思える教育を目指して	奨励賞
	11 松原中学校	個人	澤村 凌真	主体的に取り組む意欲の向上を目指したICTの活用	奨励賞
	12 草津市教育委員会	個人	山本 寛之	ESDの実践と発達支持的生徒指導との関連が生み出す 効果についての一考察	奨励賞

フレッシュ研究部門	1 志津南小学校	個人	吉田 真也	「やらされる宿題」から「やってみたくなる宿題」へ ～自由探究型・目標達成型自主学習による宿題意欲向上の実践研究～	優秀賞
	2 渋川小学校	個人	山本 和輝	遊びの要素を取り入れた体育科授業で運動好きのこどもを増やす	奨励賞
	3 笠縫小学校	個人	上野 稜	算数科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な 取り組みに関する実践研究	奨励賞
	4 玉川中学校	個人	講殿 萌	100円で世界を変える!?中学生が探究する貧困問題 -自分の未来、社会の未来の為にできることを考え、行動する 生徒を目指して-	奨励賞
	5 草津中学校	個人	齋藤 竜汰	協働的な学びを通して、運動への意欲を高める体育授業の 在り方に関する実践研究 ～生涯にわたってスポーツに親しむ生徒の育成～	奨励賞
	6 玉川中学校	個人	萩原 誠人	社会の形成者としての資質・能力を育む授業づくり	最優秀賞
	7 老上中学校	個人	神太麻 瑠幣	体育授業に対する愛好的態度の育成 ～楽しい、できるを実感する授業づくり～	奨励賞
	8 南笠東小学校	個人	前田 昌哉	主体的で協働的に学び合う授業の創造 ～ICTを活用した児童間の対話を通して～	教育研究所賞
	9 高穂中学校	個人	小倉 理央	中学校保健体育科における子どもの走る力の育成を目指して ～脚の動きを意識したトレーニングを取り入れて～	奨励賞
	10 高穂中学校	個人	行司 大成	理科における第3観点を評価するための適切な取り組みについて	特別賞

御応募、ありがとうございました!
来年度も先生方の御応募をお待ちしております。



令和7年度 研究員 調査研究より

研究テーマ

不登校児童生徒の社会的自立を育む登校支援室の運用に関する研究
～協働学習の充実の視点から～

【研究の概要】

昨年度より市内小中学校の登校支援室の運用が始まり、加配教員が配備された。多くの学校では、個別対応が中心に進められていたり、各々の学習補充や居場所の確保に重点を置いた取組になったりしている。一方「社会的自立」を見据えた集団的学びの視点が必要であると思われる。そこで登校支援室内での個別支援だけでなく、他者との協働学習の充実をはかることで、不登校傾向の児童にも、「社会的自立」に関する面、特に対人関係能力の向上につながるのではないかと考えた。本研究では、人と関わる経験を意図的に取り入れ、協働学習を充実させることで、対人関係能力を高めることをめざした。

【研究内容】

登校支援室における協働学習の充実が及ぼす影響について検証する。登校支援室の特徴でもある個別の支援については継続していく必要があり、その上で協働学習を進めていく。協働学習の実践においては、自分の思いを発言することでの他者と関わる経験や自分の役割を果たすことができたことによる成功体験など、小さな経験を積み重ねていくことが大切であると考えた。それによって生じる変容をまとめて成果として捉える。今回、協働学習として3つの学習形態を設定した。活動内容、ねらいに関しては、以下のとおりである。

- ・はぐくみ会議（話し合い活動）：自分の思いを伝える力、他者を受け入れる力の育成
- ・植物の世話、観察：共感力、協調性の育成
- ・掲示物の作成、掲示：コミュニケーション能力、協調性、他者を受け入れる力の育成

【研究結果】

<取組前後の変容>

事前調査の結果から、「共感、自己表現」の項目で児童間の認識に差が見られることが示唆された（表1）。「共感、自己表現」の平均値は中立値である3.0を唯一下回っており、児童から十分な肯定的評価が得られていないことが明確に示された。

本提案手法が児童の「共感、自己表現」にどのような影響を及ぼしたのかを明確にし、本研究の価値を実証するため、実践後にはこの観点に絞った事後調査を実施した（図1）。

事前・事後調査を比較すると、肯定的評価が、48.2ポイント上昇した。また、事後には中立値も3.69ポイントへと上昇した。

表1 事前調査による結果

	平均値	標準偏差	変動係数
楽しさ	3.71	0.95	0.26
充実感	3.29	0.95	0.29
共感、自己表現	2.71	0.95	0.35
意欲（やる気がわく）	3.29	0.76	0.23
協働性	3.14	1.35	0.43

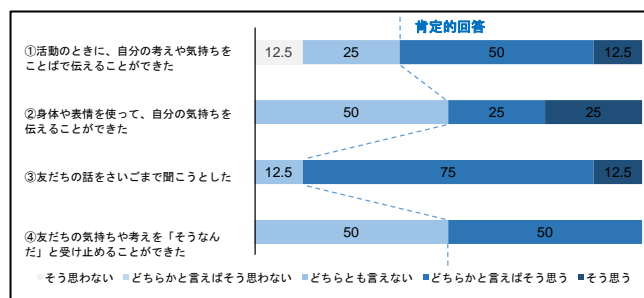


図1 事後調査による結果

<児童の変容>

A児は、1学期は欠席が多く、不登校傾向にあった。2学期から登校支援室への登校が始まった。協働学習の実践を行い、2学期途中から自教室での授業を廊下から参加するようになり、2学期途中からは総合的な学習の時間による少人数のグループワークにも参加できるようになった。そこから徐々に参加できる授業が増えていき、自学級に対する参加の仕方に変化が見られた。登校支援室と自教室で過ごす割合の変化は図2および図3で示す。他の登校支援室を利用している児童も差はあるが、同様に自教室で過ごす割合は増加した。

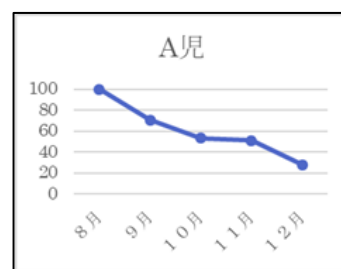


図2 登校支援室で過ごす割合

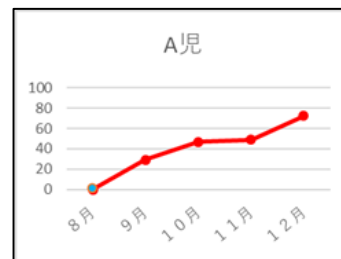


図3 自教室で過ごす割合

【成果と課題】

<成果>

(1) 自己表現および共感力の向上

「自分の思いを伝える」、「他者の意見を受け入れる」といった自己表現や共感に関する力は、肯定的な評価が高まった。他者との関わりに対して、前向きな変化が生じたと考えられる。

(2) はぐくみルームでの在室時間の変化

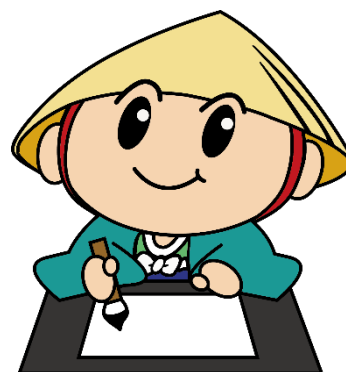
登校支援室を利用する児童の中には、登校支援室で過ごす時間が減少し、自教室で過ごす時間が増加する児童もいた。小集団での協働学習を行うことにより、対人関係能力が向上したと考えられる。

上記の2点から協働学習を意図的に取り入れることにより、児童の対人関係能力の向上に寄与する可能性がある。

<課題>

(1) 本研究は9月から12月までの限られた期間に基づく検証であることから、結果の持続性や発展的变化については慎重に解釈する必要がある。今後は長期的視点に立った調査、検討が必要である。

(2) 本観点以外に対して、どのようなアプローチをすべきか研究の余地が残された。



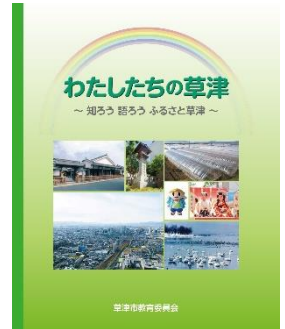
地域教材(わたしたちの草津)について

令和7年度「わたしたちの草津」編集委員会の活動について

活動の経過

令和5年4月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」(部分改訂版)にかかる指導書の一部改訂を行いました。

- ・第1回編集委員会 令和7年 5月23日
- ・各委員による作成、見直し、編集作業 令和7年 5月～11月
- ・第2回編集委員会(途中経過報告) 令和7年 8月22日
- ・第1回推進委員会(原稿確認) 令和7年12月26日
- ・第3回編集委員会(全体会) 令和8年 2月12日



活動の内容

指導書「わたしたちの草津」

- ・副読本「わたしたちの草津」についての内容を精査し、一部改訂を行いました。

<一部、紹介>

- ・タブレット端末の活用例の見直し、追記。
- ・QRコードの動作確認。

- ・副読本の改訂(令和6年度編集)に伴う変更点の見直し

- ・午前5時間制(40分授業)に合わせた単元時数の変更

- ・児童主体の学習になるように文言の変更

例) 気づかせる→気づくように促す

1. わたしたちの住んでいるところ 1 単元名 草津市の様子 (P. 7～18) 2 学習指導要領内容 (1) 身近な地域や市町の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること (ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解する。 (イ) 見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめる。</u> イ 次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けること (ア) 自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、 <u>身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考える。また、考えたことを文章で記述したり、資料などを用いて説明したり話し合ったりして表現する。</u>								
3 単元目標 身近な地域や市の様子について、自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、調査活動、地図帳や具体的資料を通して、必要な情報を調べ、身近な地域や市における場所による違いについて考える。また、身近な地域や市の様子について考えたことを表現できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や市に対する誇りと愛情を養う。								
4 評価規準(例) <table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、<u>白地図などにまとめている。</u></td> <td>①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。</td> <td>①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</td> </tr> </tbody> </table>			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめている。</u>	①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。	①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度						
①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめている。</u>	①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。	①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。						
5 主な学習の流れと活用の実際(11時間) <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習の流れ</th> <th>活用の実際と指導のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つ か か わ ぶ ・ 2 時 間 ○市の航空写真を見て、土地の違いの様子に関心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 (1時間) わたしたちの住む草津市はどんなところだろう。 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く</td> <td>・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・P.7～8の草津市の航空写真から、<u>地形の特色</u>(琵琶湖に近い、山に近い、草津川)、<u>土地利用の様子</u>(田んぼが多い、工場が多い)、<u>公共施設、交通の様子</u>などを読み取る。 ・シンキングツール(Xチャート等)を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。</td> </tr> </tbody> </table>			学習の流れ	活用の実際と指導のポイント	つ か か わ ぶ ・ 2 時 間 ○市の航空写真を見て、土地の違いの様子に関心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 (1時間) わたしたちの住む草津市はどんなところだろう。 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く	・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・P.7～8の草津市の航空写真から、 <u>地形の特色</u> (琵琶湖に近い、山に近い、草津川)、 <u>土地利用の様子</u> (田んぼが多い、工場が多い)、 <u>公共施設、交通の様子</u> などを読み取る。 ・シンキングツール(Xチャート等)を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。		
学習の流れ	活用の実際と指導のポイント							
つ か か わ ぶ ・ 2 時 間 ○市の航空写真を見て、土地の違いの様子に関心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 (1時間) わたしたちの住む草津市はどんなところだろう。 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く	・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・P.7～8の草津市の航空写真から、 <u>地形の特色</u> (琵琶湖に近い、山に近い、草津川)、 <u>土地利用の様子</u> (田んぼが多い、工場が多い)、 <u>公共施設、交通の様子</u> などを読み取る。 ・シンキングツール(Xチャート等)を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。							

完成した指導書は、令和8年度から使用できるよう3月末には学校に配布予定です。Teamsからも閲覧できるようになっています。増刷したい場合は学校にて印刷してください。作成や編集等に携わってくださった皆さん、御協力ありがとうございました。





スキルアップ ～授業づくり・学級づくり支援を振り返って

“授業づくり・学級づくり支援”では、対象の先生方の授業を学期に1回ずつ参観させていただき、授業改善のポイントやよりよい学級づくりを行っていくための手立て、手がかりなどについて一緒に学びました。また、1学期には、校内OJT研修の一環として各学校で授業公開をお願いして、対象の先生方とともに参観し多くのことを学ばせていただく機会ともなりました。

よりよい授業・学級づくりのためには、何よりも先生方自身の「自ら学ぼう」という意欲を高めることが重要です。この講座での訪問・支援の回数は限られていますが個別に継続して参観や懇談をする機会を通して、先生方が自らの実践を客観的に見つめ直すとともに、自分の良さや強みを自覚し、学ぶ意欲を高める場となったのではないのでしょうか。これを契機に、さらに自己研鑽を深めてほしいと思います。



以下に事後アンケートの中から、この事業についてのお声をいくつか紹介します

(対象の先生方の声)

(管理職の先生の声)

- ・スキルアップ講座を受け、授業づくりの仕方や授業の中に取り入れるとよい活動などがよくわかりました。授業を見ていただき改善すべき点や児童に必要となる支援の仕方などを詳しく教えていただいたので、今後の授業づくりに生かしていきたいです。
- ・自分の授業を見ていただいて、評価・改善案を出してくださるのが、自らの授業力向上に向けてとても役立ちました。きめ細かく授業を分析していただき、改善案を出されると同時に、よさも伝えてくださるので励みにもなりました。
- ・初任者研修が終わって今年1年、客観的に評価していただくことがなくなったので、この機会はとても貴重でした。なのでもっと頻繁に見てもらいたかったというのが感想です。断片的にできるようになったことをもっと実感できたらいいなと感じました。

- ・授業の質の向上と教員の学ぶ意欲向上は、学校経営において最も重要な課題の1つです。研修機会の少ない2年目以降の若手教員や経験の浅い講師、管外からの転任教員が、自身の授業参観によるご指導やご支援により、学級経営や授業づくり、ICT活用への熱意やチャレンジする意欲を高めています。そのことが学校の組織力向上にもつながっていると思われまます。
- ・スキルアップの指導員に見せるだけでなく、管理職やOJT研修の一環にも取り入れ、校内研究の授業公開だけでなく学校全員が授業公開を見る機会を得た。そのことにより、授業改善のヒントをたくさん得た。

スキルアップ ～ICT活用支援を振り返って～



スキルアップICT支援では、対象教員36名に対して、年間3回～6回、具体的な授業でのICTの有効活用を目指した支援を実施しました。

その結果、対象教員は、授業で「電子黒板にデジタル教科書やパワーポイント資料を映す」「ロイロノートを使って資料カードを児童生徒に送信する」「児童生徒がインターネット検索できるように指導する」「児童生徒が電子黒板を使って発表できるように指導する」など、ICTを効果的に使った取り組みを展開できるようになりました。

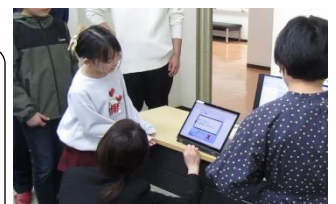


草津市プログラミングコンテスト



今年度の受賞校は以下のとおりです。表彰式後の体験交流会では、こどもたちが参加者にプログラムを体験してもらったり、感想を聞いたりするなど有意義な活動ができました。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 優秀賞 草津小学校「算検スタート」 | 渋川小学校「おこづかい帳アプリ」 |
| 笠縫東小学校「環境問題クイズ」 | |
| 草津中学校「エコな街づくり」 | 老上中学校「SDGsの宣伝」 |
| 優良賞 山田小学校「分数のかけ算」 | |
| 玉川中学校「特産品紹介システム」 | |



<体験交流会の様子>

やまびこだより



☆はじめまして！ 野路教室

2月2日(月)多くの方々にご支援いただき開設しました。南草津駅東口から徒歩10分。明るく広い活動室とゆったり話せる相談室。こども達が笑顔に、元気になれる教室をめざします。小中学生や保護者、先生方の見学・体験をお待ちしています。

☆草津のまちにでかけよう！☆

2月4日(水)、草津のまちにでかけました。バスを利用し、草津駅周辺へ。バスは、なんと現金支払い！今のこどもにとっては、貴重な経験であったと思います。その後、インフォニア草津の施設見学、買い物体験、キラリエ草津の施設見学など、楽しみました。



☆手作り おにぎり「おにぎらず」

昨年度に続き、防災の視点から「食事」について考え、少しでもおいしく自分たちで作れるものとして『おにぎり』を作りました。ご飯、中に入れる好きな食材、そしてのりを準備して、簡単「おにぎらず」にしてみました。

今年度、やまびこ教室には33名(青地22名 上笠11名)の児童生徒が在籍しました。先生方にはお忙しい中、各教室のこどもについて懇談したり、様子を見に来てくださったりして連携を図ることができました。また、各関係機関の方々にも大変お世話になりました。皆様この1年間、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



学校における教育相談は、不登校、いじめ、学習不振、友人関係、進路、発達障害、非行、情緒不安定など、学校生活における様々な課題解決を目的として行われています。近年では、SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）と連携しながら、傾聴・共感や信頼関係の構築に向けた「カウンセリングマインド」に加え、課題の背景に家庭の経済的困窮や虐待など生活全般にわたる視点からアプローチする「相談援助（福祉の面談）」の要素が重視されるようになってきました。

どのような相談においても、相談の主体はあくまで子どもや保護者本人であり、決断は本人が行うものです。ただし、その選択や要求の背景を理解し、必要な情報が十分に理解できる形で提供されているか、心身のエネルギーが十分か、冷静な判断ができる状態かなどを見極め、本人が自身の意向に沿った選択ができるよう支援することも、相談を受ける側の大切な役割の一つです。

相談が建設的に進められるために私が心に留めていることの一つに、「ポリヴェーガル理論」という自律神経の機能に関する理論があります。自律神経は活動的なときに働く交感神経と、リラックスするときに働く副交感神経の2つから成り立っています。さらに、副交感神経は「腹側迷走神経複合体」と「背側迷走神経複合体」から構成されていると言われています。

・交感神経（闘争と逃走）：



危険を察知した時に、闘争や逃走に備えて体を活性化させるシステム

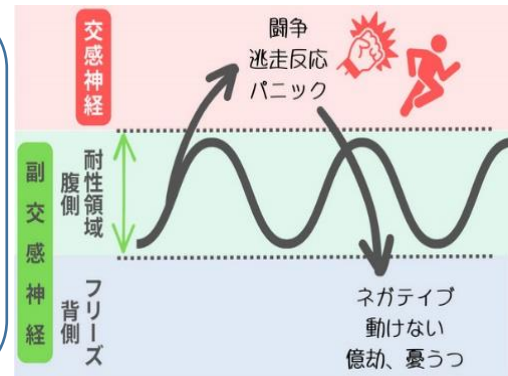
・腹側迷走神経（安全と社会交流）：

私たちが安全で安心している時に働く最も進化したシステム



・背側迷走神経（うごけなくなる）：

闘争や逃走が不可能な究極の危険に直面した時に、体をシャットダウンさせる最も原始的なシステム



子どもたちの益につながる相談を行うためには、相談者と被相談者の双方が「腹側迷走神経」が優位な状態、すなわち「耐性領域」に留まっている必要があります。自律神経は心拍や呼吸のリズム、顔の表情などにも影響を与えます。交感神経が興奮状態になり「闘争・逃走反応」が起こっていると、入力される情報の捉え方も出力される言葉も乱れ、互いが意図しない方向に話が進んでしまいがちです。

お互いの状態は影響し、共鳴し合うものです。そのため、まずは自分自身が「耐性領域」に留まりつつ、相手にもこの領域に来てもらうよう努めます。交感神経や背側迷走神経の働きを鎮めるには、まずは生理的状态を整えることが必要です。例えば、空腹でない状態であること（本来はホットミルクやお煎餅の摂取が効果的）、室温や椅子の状態が心地よいこと、話し方を穏やかにし声のトーンを下げて聞き心地を良くすることなどで、自律神経が「安心・安全」を感じやすくします。

顔見知りの人が談笑しながら相談の部屋に向かうことや、「来てくれてありがとう」「時間を取らせてしまい、申し訳ない」などのお礼や部分的な謝罪（全面的な謝罪ではなく）の言葉をかけることで少し状況が変わることもあります。膠着状態に陥った場合は一旦中断して時間をおけるように策を講じておくことも必要です。

まずは、いざという時にも自分自身を耐性領域に留め続けられるよう、普段から自分のリラックス方法やストレスを解消する方法を見つけておくことも大切だと思います。例えば、心が和む絵や写真を見る、ふわふわしたものや握り心地の良いものを握る、深呼吸をする、両手を顔の横でゆらゆら振る、左右の足を交互に軽く動かすなどもプチリラックスにつながるものです。ぜひお試しください。

（草津市SSW 恒松睦美）



シリーズ

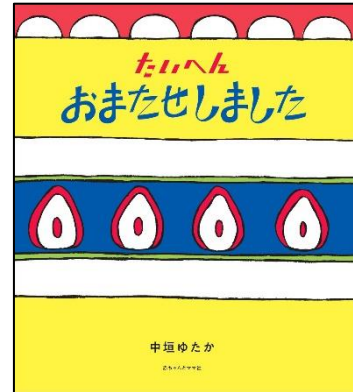
司書さんおすすめの絵本



「たいへんおまたせしました」 中垣 ゆたか／著 (赤ちゃんともママ社)

孫の誕生日をお祝いするためあるレストランを訪れました。このレストランで提供されるのは、最高で特別な料理です。さっそくいちごのショートケーキを注文すると、ウェイターの「オーダー！！」のかけ声とともにレストランの従業員たちが一斉に走り出します。さて、このレストランの料理が最高で特別なのはなぜなのでしょう？

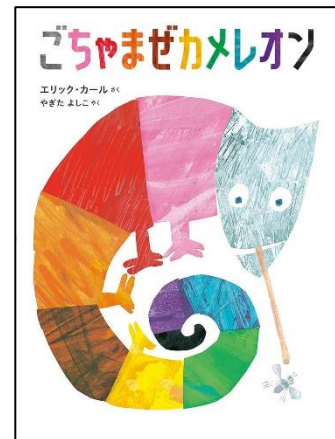
生き生きと動くキャラクターがユニークな色使いで表現されており、彼らが丁寧に作り上げるショートケーキは特別においしいだろうと、出来上がりが待ち遠しくなります。



「ごちゃまぜカメレオン」 エリック・カール／さく やぎた よしこ／やく (偕成社)

カメレオンは、はっぱの緑・赤い花・木の茶色など、過ごす場所によって体の色を変え、姿を隠しながら暮らしています。ある日、動物園を訪れたカメレオンは、色とりどりの動物たちを見て「あんなふうになりたい」と思いました。すると、不思議なことに、なりたいと願うたびにカメレオンの体の形が変わりはじめたのです。

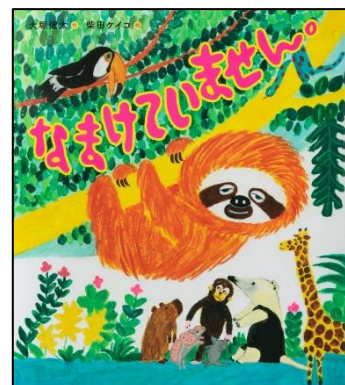
「カメレオンが、体の色だけでなく、形も変えることができたら？」こどもと一緒に絵に描いて考えてみませんか？特別にすてきなカメレオンが生まれるかもしれません。



「なまけていません。」 大塚 健太／作 柴田 ケイコ／絵 (パイインターナショナル)

ナマケモノくんはいつもなまけてばかり。朝のラジオ体操でも、みんなとピクニックに行った時も、自分の誕生日パーティーでだって木の上で寝ています。でも実は、ナマケモノくんがじーっとしているのには、とても大切な事情があったのです。

なまけているように見えるナマケモノくんをうらめしそうに見つめる友達ですが、ページが進むごとに「もっと一緒にいたい」という気持ちが垣間見え、「なまけてる」「なまけてない」のかけ合いがかわいらしく思えてきます。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

